

基本方針1 「確かな学力」を身に付ける教育を推進します。

1-①

小学校少人数学級実施事業【教職員課】



事業概要

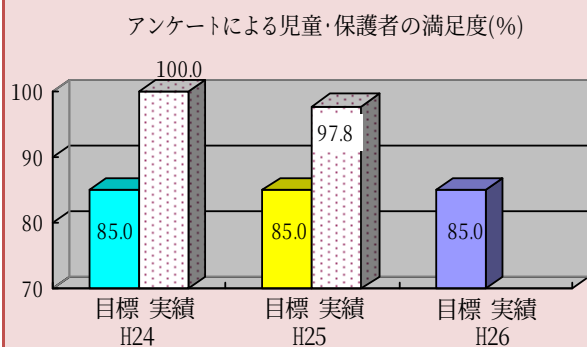
きめ細かな指導を展開するため、国の施策で1学級の上
限が35人となった学年よりも一つ上の学年を対象として
市独自で35人以下の学級編制とし、市立小学校に非常勤
講師を派遣しました。

平成25年度実績

実施校 市立小学校全23校

派遣人数 6人

成果指標



成果と課題・今後の取組等

少人数学級編制により、一人一人の児童に対
応できる時間が増え、個々の児童の学習状況な
どの把握が容易になり、基礎学力の定着や授業
での児童の発言機会の増加などがみられまし
た。

今後は、小学校教科担任制推進事業と統合
し、いじめや問題行動、不登校などに対しても、
きめ細かな対応ができるよう、小学校児童支援
推進事業として、事業を推進してまいります。

委員からの意見

- ・きめ細かで、効果的な指導を行うためには不可欠な事業ですので、今後も継続した方が望ましいと考えます。
- ・国の施策より一つ上の学年を対象とした市独自の事業ということで、大きな前進であり高い評価を耳にしています。対象の学校には非常勤講師を派遣しているため、子供一人一人にきめ細かな対応ができるとともに、学びが高まる授業や児童理解が展開できていて、担任にとっても児童にとっても安定した学習効果を上げています。今後も順次学年を上げて少人数学級が計画的に実施されることを望みます。
- ・きめ細かな指導が展開でき、一人一人の学力向上に役立っていると思います。今後はより広い視点からの事業展開となるようですが、趣旨に沿ったより効果的な非常勤講師の派遣になるよう期待しています。



事業概要

市立小学校高学年の教科担任制を推進し、専門的な指導により学力の向上を目指すため、専科指導を行う教員がいない普通学級8学級以下の小規模校などに非常勤講師を派遣しました。

平成25年度実績

実施校 市立小学校2校

派遣人数 2人

成果と課題・今後の取組等

学級担任以外の教諭からも授業を受けることで、児童の学習意欲の向上がみられ、担任が非常勤講師と学習面や生活面について情報交換をすることができ、児童理解を深めることができました。

今後は、小学校少人数学級実施事業と統合し、いじめや問題行動、不登校などに対しても、きめ細かな対応ができるよう、小学校児童支援推進事業として、事業を推進してまいります。

委員からの意見

・全ての児童に、均等に質の高い授業を受ける機会を提供することは重要なことです。この事業により、小規模校の児童の学習意欲が向上し、成績も向上することが期待できるので、今後も継続することが望ましいと考えます。

・小学校高学年における教科担任制により、小規模校での授業の質的向上と豊かな人間関係の醸成に役立ったと思います。今後は事業改善により、小規模校における教育環境の改善につながる人的配置を望みます。



事業概要

生徒指導上課題のある学校において、生徒指導を担当する教員の授業数の軽減や複数での指導を行い生徒を支援するため、非常勤講師を配置しました。

平成 25 年度実績

実施校 市立中学校 2 校

派遣人数 3 人

成果と課題・今後の取組等

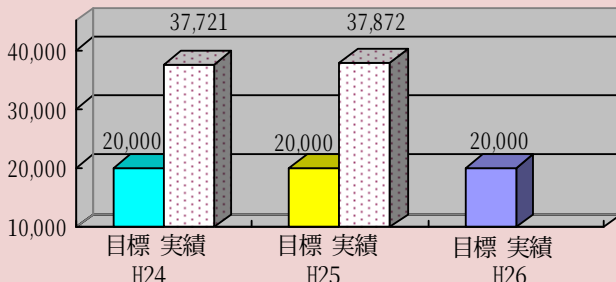
非常勤講師の配置により、課題のある生徒に対して効果的な指導などを行うことができました。今後も、落ち着いた学校生活の推進と学力の向上を図るため、事業を継続していきます。

委員からの意見

- ・生徒指導上課題のある学校においては、特別なサポートをするのは当然と考えます。非常勤講師の配置により、効果的な生徒指導が期待できるとともに、教員の負荷も軽減されるので、今後も事業の継続を望みます。
- ・生徒指導上課題のある学校への非常勤講師の配置により、課題のある生徒への指導がより充実し、学校全体の学力の向上にも役立ったと思います。今後も、配置校を増やすなど、より充実した事業展開を望みます。

1-④⑤ 元気アップスクール推進事業交付金(小学校・中学校)【学校教育課】

	事業概要
	市立小・中学校が地域との^{きずな}絆を大切にした特色ある学校づくりを推進するため、各小・中学校からの提案プランに基づき、必要な経費を交付しました。
	平成 25 年度実績
交付校 市立小・中学校全 36 校 ボランティアなど来校者数 37,872 人 (小学校 32,735 人、中学校 5,137 人)	

成果指標	成果と課題・今後の取組等												
地域人材や講師などの来校者数(人) (小・中学校合計)  <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>H24</td><td>20,000</td><td>37,721</td></tr><tr><td>H25</td><td>20,000</td><td>37,872</td></tr><tr><td>H26</td><td>20,000</td><td>20,000</td></tr></tbody></table>	年度	目標	実績	H24	20,000	37,721	H25	20,000	37,872	H26	20,000	20,000	地域の協力を得て、各学校の特色ある事業展開を推進することができました。 今後も、特色ある学校づくりのために事業を実施します。
年度	目標	実績											
H24	20,000	37,721											
H25	20,000	37,872											
H26	20,000	20,000											

委員からの意見

- ・来校者数は目標値を大幅に上回っており、大きな成果が得られたと評価します。
- ・元気アップスクール推進事業は、「地域との連携」や「児童・生徒の学力向上」になくはない、学校にとって有り難い予算だと思います。各校の「特色ある学校づくり提案プラン」を推進するためには、どうしても予算は必要であり、平成 25 年度の指標実績値が、目標値を大きく上回っていることから必要な事業だと考えます。今後も、是非、事業の継続が望ましいと考えます。
- ・学校の特性に合わせた事業が推進でき、教育の向上と特色ある学校づくりに貢献できる事業だと思います。学校が独自に考えて使える予算は今後も確保すべきだと思います。それぞれの学校が地域の特性に合わせた教育の多様性に寄与するものだと思います。
- ・市立小・中学校全校に交付金を交付することにより、特色ある学校づくりができ、地域とのつながりを強固にすることに役立っていると思います。各小・中学校の活動内容と人材などについて、情報交換を行うなど各小・中学校のニーズに応えられると、より活性化すると思います。

	事業概要
	市立小学校が、より良い教育活動の実践や特色ある学校づくりを推進するための研究活動を行うために、交付金を交付しました。 市立中学校が、より良い教育活動の実践や特色ある学校づくりを推進するため、交付金を交付しました。
	平成 25 年度実績
交付校 市立小・中学校全 36 校	

成果と課題・今後の取組等

各学校の特色ある事業展開や教職員の資質向上に資する研究活動を推進することができました。

今後も、地域との連携・信頼関係を基盤とした各学校の教育の質の向上のため、事業を推進します。

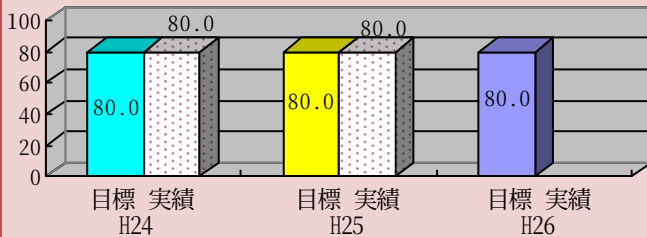
委員からの意見

全小・中学校に交付金を交付することにより、特色ある学校づくりや研究活動が充実したものになっていると思います。教職員の資質の向上を目指す研究活動を一層充実するためにも、事業の継続・充実を望みます。

	事業概要
	小・中学校9年間を見通した教育課程編成及び指導方法の工夫改善の在り方の研究を通して、学力向上に向けた取組を推進しました。
	平成 25 年度実績

児童・生徒の学力向上に向けて、市立小・中学校全 36 校を対象に、実践的な研究を進めました。

「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」において、6 校一貫合同研修会を 14 回開催しました。

成果指標	成果と課題・今後の取組等												
研究指定校への年度末アンケートによる 小中一貫教育の充実度(%)  <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標 (%)</th><th>実績 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H24</td><td>80.0</td><td>80.0</td></tr><tr><td>H25</td><td>80.0</td><td>80.0</td></tr><tr><td>H26</td><td>80.0</td><td>80.0</td></tr></tbody></table>	年度	目標 (%)	実績 (%)	H24	80.0	80.0	H25	80.0	80.0	H26	80.0	80.0	平成 25 年度において、県の事業である「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」を 2 中学校区で受託し、その中学校区の実情に沿った学力の向上につながる教員研修を実施するとともに、残りの 11 中学校区においても授業研究や研修会を積極的に実施しました。 今後も、中学校区ごとに地域の実情を踏まえた義務教育 9 年間における「めざす児童・生徒像」を小・中学校教職員が共有し、具体的にどのような取組が有効であるかを検証し、具体化する必要があります。
年度	目標 (%)	実績 (%)											
H24	80.0	80.0											
H25	80.0	80.0											
H26	80.0	80.0											

委員からの意見

- ・児童・生徒の学力を確かなものにするには、小・中学校が連携して教育することは重要であり、効果が期待できると考えますので、更に積極的に研究することが望ましいと考えます。
- ・小・中学校9年間を見通した教育課程編成や指導方法の工夫改善の在り方の研究は、小・中学校相互の連携協力体制を強固にし、児童・生徒の学力の向上につながると思います。実施に当たっては、子供の発達段階を十分考慮するとともに、各学校の教育の特色や指導方法の良さをいかにすることが大切であると考えます。



事業概要

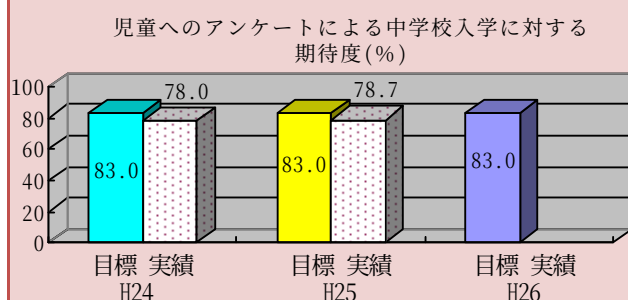
教育委員会が指定した小・中学校において、中学校教員が学区の小学校で授業をすることで小・中学校の連携を図り、小中一貫教育を推進するため、中学校に非常勤講師を派遣しました。

平成 25 年度実績

実施校 市立小・中学校各 2 校

派遣人数 2 人

成果指標



成果と課題・今後の取組等

小・中学校それぞれの教育の実際を知り、連携を深め、また、中学校の学習内容を踏まえた関連性のある学習指導ができたことにより、小中一貫教育を推進する上で、大きな効果がありました。

今後も、小・中学校の連携を一層効果的なものとしていくため、事業を継続します。

委員からの意見

・中1ギャップをなくす良い事業であり、中学校の授業形態（専科指導）やテスト形式などに小学生のうちから慣れていれば、つまずき、焦りなどの不安解消、学力向上、意識向上につながると思いますので、更に充実してほしいと考えます。

・児童・生徒の学力を確かなものにするには、小・中学校が連携して教育することは、重要であり、効果が期待できると考えますので、更に積極的に推進し、残りの中学校区においても実践することが望ましいと考えます。

・小中一貫教育の研究推進に当たっては、小・中学校相互の理解と連携を図るため、小学校で中学校教員が授業を行います。そのような活動で手薄になる中学校を人的に支えることは必要なことだと思いますので、今後も継続を望みます。



事業概要

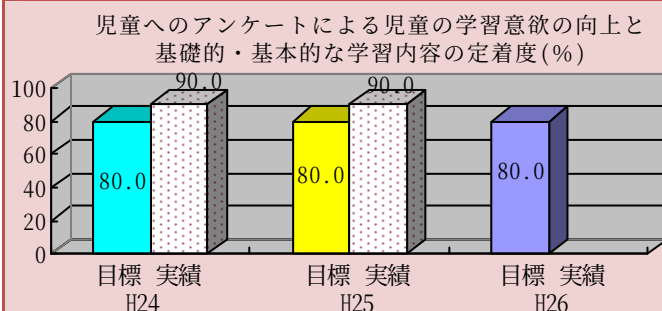
放課後の教室などを利用し、小学校3年生の国語及び算数の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、復習を中心とした個別の学習指導をするあつぎ元気塾講師を配置しました。

平成25年度実績

実施校 市立小学校 22校

対象児童数 736人

成果指標



成果と課題・今後の取組等

学習習慣の確立や基礎的・基本的な内容の定着が図ることができました。

今後も、基礎的・基本的な学力の定着を図るため、児童一人一人の実態に応じたきめ細かな学習指導を実施します。

委員からの意見

- ・国語と算数の2教科ですが、基礎的・基本的な内容を身に付けることは、極めて重要であり、復習に重点を置いたこの事業は高く評価できると考えます。
- ・小学校3年生の児童を対象に復習中心の学習内容により定着は図られていると思いますが、希望者中心であるため、一つの事業としては疑問も感じます。また、下校時は担当の教員が見送る業務まで行っていますが、下校の際、万が一の事故などに心配もあります。学校事情もあると思いますので、多方面からの意見を聴きつつ、今後時期を見て振り返りの必要性を感じます。
- ・放課後の教室を利用し、個別対応を中心にして国語と算数の基礎的な内容の定着を図る取組により、成果が上がっていると思います。個に応じた指導を進めるためには、児童の実態把握が欠かせません。学校との連携を密にして、より効果的な実施を望みます。



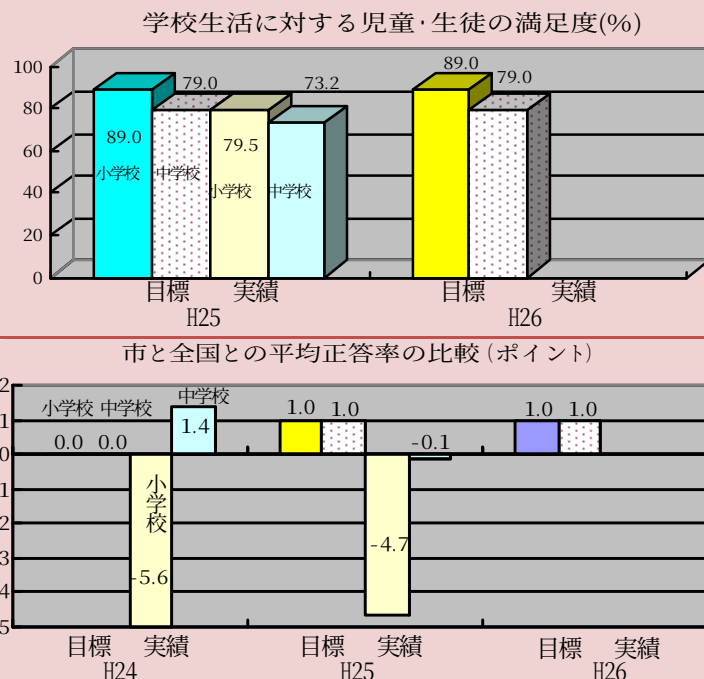
事業概要

「確かな学力」を身に付ける教育を推進し、基礎的・基本的な知識や技能の習得、個に応じた指導の充実などの普及・定着などにつなげるために、市立小学校5年生及び市立中学校2年生を対象に調査を実施しました。

平成 25 年度実績

児童・生徒の学力や学習状況を継続的に把握するため、小学校5年生及び中学校2年生を対象に、厚木市独自の学力学習状況調査を実施しました。

成果指標



成果と課題・今後の取組等

学力学習状況調査などの結果を小・中学校両者で分析していますが、さらに、小・中学校の9年間の学びの系統性の理解を深め、授業力向上を図り、分かる授業を展開できるように研究を進めていきます。

学力学習状況調査などの結果を指導の改善にいかすことにより、学ぶ意欲の育成など、「確かな学力」の向上を目指します。

委員からの意見

- ・学力学習状況調査は児童・生徒の学力を把握する上で不可欠ですので、結果を分析し「確かな学力」の向上につなげることが求められます。
- ・市独自の学力学習状況調査を実施して、確かな学力を身に付けるための教育の在り方を探ることは意義深いことだと思います。調査結果から見えてくるものを基に、教員の指導をどう改善するかが、教員の指導力向上につながると思います。そのため、教育委員会から教員に対して具体的な指導をしていく必要があると思います。



事業概要

充実した教育活動を推進するため、市立小・中学校に学カステップアップ支援員を派遣し、小学校では学級担任の補助及び学習支援、中学校では数学と英語を中心とした学習支援を行いました。

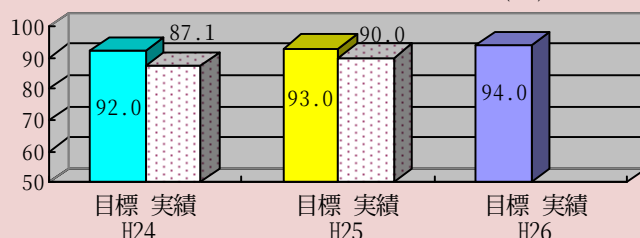
平成 25 年度実績

実施校 市立小・中学校全 36 校

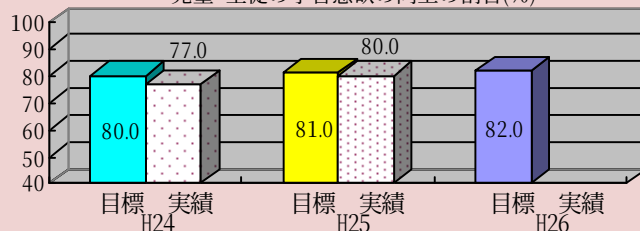
派遣人数 小学校 33 人、中学校 38 人

成果指標

児童・生徒の学習理解度の割合(%)



児童・生徒の学習意欲の向上の割合(%)



成果と課題・今後の取組等

児童・生徒一人一人に学習状況に応じたきめ細かな支援を行うことで、基礎的・基本的な知識や技能の習得及び学習意欲の向上が図られました。

今後も、各学校においてきめ細かな支援を行い、個々の状況やニーズに応じて適切な支援を受けられる環境を整備していきます。

委員からの意見

・「確かな学力」を身に付ける教育の最も重要で効果的な事業の一つであると考えます。学力学習状況調査実施事業の分析結果と連動させることにより、学力の向上が大いに期待できますので、継続を望みます。

・この事業は、現在なくてはならない事業であり、事業が実施されて 10 年以上経つと思いますが、基礎的・基本的な知識の習得や学習意欲の向上、体験学習、高学年の実習活動に支援員の存在は、必要不可欠なものになっています。また、校外学習の引率では、児童の安全面の配慮からも支援員の派遣は大事な位置を占めています。今後も、継続更には人的な配置の拡充が重要と判断します。

・様々な児童・生徒がいる学級において、充実した学習活動を行うために、支援員による担任の補助や学習支援が大いに役立っていると思います。特に、学習習慣の確立や学習意欲の喚起、基礎的・基本的な知識や技能の習得を図る場面で有効であると思います。今後も、学校・教員との連携を十分に図り、より効果的な実施につなげていただきたいと思います。



事業概要

国際理解の素地を培い、コミュニケーション活動を中心とした英語教育の充実を図るため、市立小・中学校全校に英語を母国語とする外国語指導助手を配置しました。

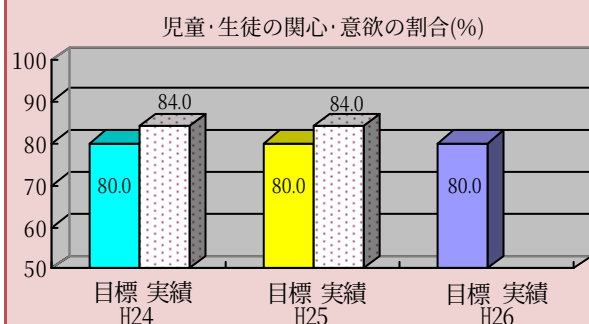
平成 25 年度実績

配置校 市立小・中学校全 36 校

配置人数 小学校 4 人、中学校 7 人

配置日数 小学校 706 日、中学校 1,133 日

成果指標



成果と課題・今後の取組等

委託業務のため、外国語指導助手への指示は、受託業者を通じて指示を行わなければならない、その場その場に応じた柔軟な授業の展開については課題があります。

児童・生徒の授業が円滑かつ効果的に進めることができるよう、具体的な場面を想定した事前確認など綿密な連絡を行うことにより、学校の指導方針に沿った対応の充実を図ります。

委員からの意見

・委託業務のため、指導助手への指示が直接行うことができないと、現場での指導がいかされないのではないかと感じます。児童・生徒にとって外国語助手の存在は、新鮮で外国語に親しむ良い機会だと思います。今後、事業を進めるに当たっては、委託ではない外国語指導助手の検討も必要だと考えます。

・英語を母国語とする外国人を指導助手に配置することにより、児童・生徒が生きた英語に触れるとともに、英語への関心度の向上につながるので、英語力向上に効果的な施策であると考えます。

・全小・中学校に外国人指導助手を配置し、ネイティブな英語で授業を行うことで、児童・生徒のコミュニケーション能力の向上に役立っていると思います。教育課程にのっとった日常の授業の中で、教員の主体性を大切にしながら、外国人指導助手との連携を図り、コミュニケーション能力の向上を目指していただきたいと思います。

厚木市SEL教育基金事業【学校教育課】



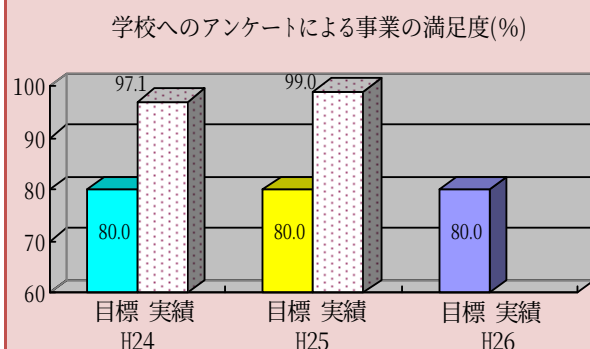
事業概要

「確かな学力」を身に付けた心豊かで健康な児童・生徒を育成するため、厚木市SEL教育基金を活用しました。

平成 25 年度実績

- ・携帯型学習機器用学習ソフトを市立小学校全校に配布
- ・おもしろ理科教室の実施 市立小学校全 23 校(46 回)
※ 3 大学、8 企業の協力を得て実施
- ・こども科学賞の授賞式 12 月 15 日(日)

成果指標



成果と課題・今後の取組等

こども科学賞の応募件数が年々増加し、平成 25 年度は開始当初から比べると 402%増の 1,041 点となっています。引き続きより多くの作品が出展されるよう、各種媒体を利用した呼びかけを進めます。

理科好きの児童・生徒を育成するための「おもしろ理科教室」では、平成 26 年度からは 2 企業増やし、3 大学・10 企業として、選択肢を増やす予定です。今後も、きめ細かな教育の推進のため、事業を継続します。

委員からの意見

・児童・生徒の科学に対する関心が年々増えている事業であり、とても大切なことであると考えます。より一層強化するように取り組んでいただきたいと思います。

・SEL教育基金を活用した「こども科学賞」や「おもしろ理科教室」の取組は、児童・生徒の科学的な興味・関心を引き出し、科学的な見方・考え方を育てる好機となっています。また、基礎的・基本的な知識や技能を活用したり、発展させたりすることで、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などの育成にも役立っていると思います。今後も、内容を一層充実させるため、学校を始め関係諸機関との連携を図ってほしいと思います。



事業概要

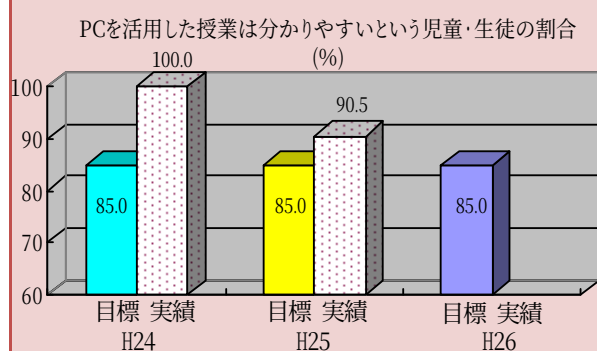
児童・生徒がICTを活用できるように支援するため、パソコンを使った授業の補助などを行う学校ICTサポーターを市立小・中学校に配置しました。
※ICT…情報通信技術

平成25年度実績

派遣回数 延べ477日

ICT出前講座 14回実施

成果指標



成果と課題・今後の取組等

事業の見直しにより、今後は教職員に対する支援を縮小する代わりに、ICT出前講座の充実によるきめ細かな支援を行い、授業支援など児童・生徒に対する新しい機器環境への支援割合を増加させます。

また、競争性を高めるため、契約方法を見直します。

委員からの意見

・ICTを活用した授業を行うためのICTサポーターは、学習の目標を達成させるために、どのようにICTを使うと良いかを相談でき、教職員にとって心強い存在です。学校ホームページの作成などにおいても、専門性をいかした支援で、ICTの有用性を広めることができたと思います。ICTを授業で活用する良さをアピールする方策を考え、だれでも、いつでも授業で使えるようにしてほしいと思います。

小学校ICT化推進事業 中学校ICT化推進事業

【教育研究所】



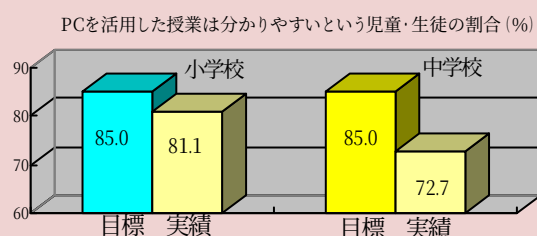
事業概要

「確かな学力」を身に付けるために、ICTを活用した授業を展開し、児童・生徒に学習への興味を持たせ、ICTを活用できる教育環境の向上を図りました。

平成25年度実績

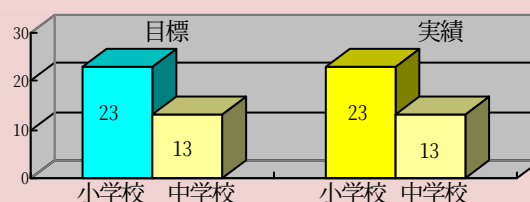
学校に配置している全てのXPパソコンを更新し、セキュリティの確保ができました。

平成24年度成果指標



平成25年度成果指標

学校に配置している全てのXPパソコンの更新(校)



成果と課題・今後の取組等

サーバー等再検討会議において、新たな教育ネットワークへの取組が議論されており、最終報告を持って今後の機器構成や仕組みづくりをしていくとともに、新たな機器導入の検証を行います。

委員からの意見

・厚木市は、以前からICTを活用できる教育環境の向上に力を入れ、児童・生徒に有効な学習活動を提供できていることは、大きな成果だと思います。今回もセキュリティの確保ができたことは、高い評価につながります。さらに、新たな機器導入に伴って、印刷機の導入やその数など、PCに関する環境整備も必要であると考えます。

・ICTを活用した授業を展開し、児童・生徒が「確かな学力」を身に付けるためには、機器操作などにストレスがなく、安心して学習に集中できる環境が求められます。日進月歩の技術革新がなされる中ですが、義務教育としての活用という原点を見つめた対応を望みます。

小学校保護者負担軽減事業 中学校保護者負担軽減事業

【学校施設課】

	事業概要
	保護者の経済的負担の軽減を図るため、小学校においては、図工科、家庭科を中心とした教材などや学級活動、クラブ活動に係る消耗品を、中学校においては、音楽科、美術科、技術・家庭科を中心とした教材などや学級活動に係る消耗品、部活動に係る備品を購入しました。
	平成 25 年度実績 【小学校】 消耗品費 28,927 千円 児童一人当たり補助額 2,354 円 【中学校】 消耗品費 16,091 千円 備品購入費 3,046 千円 生徒一人当たり補助額 3,096 円 部活動に係る補助額 493 円

成果と課題・今後の取組等

保護者が負担する教材教具費のうち、小学校において 13.8%、中学校において 22.0%を公費で負担することにより、充実した教育活動に資することができました。

今後も、継続して取組を実施していきます。

委員からの意見

- ・保護者向けのアピールを更に工夫してほしいと考えます。意義ある事業であるにもかかわらず、上記実績にある公費により負担している事業を、保護者はきちんと理解しているのかどうか疑問があります。保護者に伝えるためのアピールの方法について検討を望みます。
- ・保護者の経済的負担を軽減するため、教材教具費や備品費を公費で負担することは、保護者にとって大変有り難いことだと思います。実績や事業計画について保護者に周知し、理解を図るとともに、今後も本事業の継続・発展を望みます。

【基本方針 1 に対する点検・評価委員からの総括的意見】

○児童・生徒が確かな学力を身に付けることができるように、様々な角度から見た事業を展開しています。基本方針 1 にある事業は、児童・生徒が基礎的な知識や技能を身に付けることに効果的であり、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力を育むことに役立つと考えます。さらには、学習意欲の向上にもつながるものと確信いたします。

○確かな学力を身に付けるための基本方針 1 にある事業は、学力向上に向けた取組であり、小・中学校ともに高い教育効果を上げています。特に人的支援は、児童・生徒の学習状況にきめ細かな支援となっており、授業支援・学級づくり・児童理解を支える仕組みとして有効であったと考えます。平成 25 年度指標実績値から見ても大変に有効である数値を示しています。平成 26 年度も、人的支援の更なる継続と充実が望ましいと考えます。

○厚木市の確かな学力を身に付ける教育を推進するための事業は、学校プランに応じた経費の交付や各種人的支援によるきめ細かな指導や課題への対応、小中一貫教育の研究、放課後の充実を図る事業などがあり、各小・中学校の状況に応じた効果的な展開がされていると思います。特に特色ある学校づくりを推進する元気アップスクール推進事業は、本市教育行政の核となるものです。今後も確かな学力の向上に向けて、各小・中学校への経費の充実並びに人的支援事業の継続・強化を図ってほしいと思います。また、学力の要素として挙げられている思考力・判断力・表現力などの育成の在り方について、研究を深めていく必要があると思います。

2-①②

**小学校学校給食施設整備事業
中学校学校給食施設整備事業**

【保健給食課】



事業概要

北部・南部学校給食センターを「学校給食衛生管理基準」に基づいた施設として整備するに当たり、調査委託を実施しました。

平成 25 年度実績

北部・南部学校給食センターの施設整備に伴う調査委託について、仕様書に基づいた完成報告を受けました。

成果と課題・今後の取組等

老朽化した北部・南部学校給食センターの整備及び小学校単独調理場の未整備校の整備方針について、策定する必要があります。

また、今後については、北部・南部学校給食センターと単独調理場の現状を踏まえ、平成 25 年度に実施した基礎調査を基に、外部の専門機関に調査を委託し、今後の学校給食施設整備方針を策定します。

委員からの意見

北部・南部学校給食センターの施設整備の改善に向けて、計画的に取り組まれており、近い将来、より安全で安心な給食の提供が期待できます。今後も、児童・生徒の健やかな体を育むため、小学校単独調理場の整備と併せて計画的な施設整備を望みます。



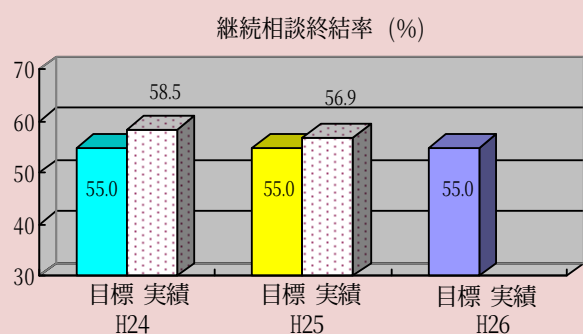
事業概要

児童・生徒とその保護者及び学校や教職員が抱える問題の解決のため、来所相談を始め、相談員の家庭訪問・学校への派遣・配置などによる相談活動を行いました。

平成 25 年度実績

来所相談 4,261 件、電話相談 363 件、家庭訪問相談 488 件、メール相談 1 件、小学校スクールカウンセラー相談 3,357 件、学校コンサルテーション 120 件（数値は全て延べ数）の相談活動を通して、児童・生徒及びその保護者に対する支援を実施しました。

成果指標



※継続相談終結率とは、継続的に来所して相談したケースの中で、その年度内に相談が終了したケースの割合です。

成果と課題・今後の取組等

小・中学校との積極的な連携に加え、教育ネットワークコーディネーターによる医療・福祉との連携支援を行い、複合的な課題のあるケースに対応してきました。

相談内容は年々深刻化・複雑化しており、今まで以上に時間が掛かることから、今後も青少年教育相談センターでの対応能力向上を図るとともに、小・中学校や保護者に対しての、発達課題への理解や保護者対応などの研修を積極的に進めていく必要があります。

委員からの意見

- ・年々相談内容が深刻化・複雑化していることから、今後は、相談者への対応が長期にわたっていくと考えます。非常に大事な事業であり、人的・予算的にも重点を置いてほしいと思います。
- ・児童・生徒とその保護者が抱える諸問題を、早期にスムーズに解決することは豊かな心を育む教育に直結しています。最近の様々な事件に鑑みて、対応力を一層強化する必要があると思います。
- ・児童・生徒と保護者並びに学校・教職員の抱える問題について、来所相談や相談員の家庭訪問・学校派遣などによる相談活動を充実させ、目標値以上の継続相談終結率を上げているのは、関係者の尽力によるところが大きいと思います。今後も、学校・専門機関との連携を密にして、一層複雑化する問題について、地道な対応を望みます。



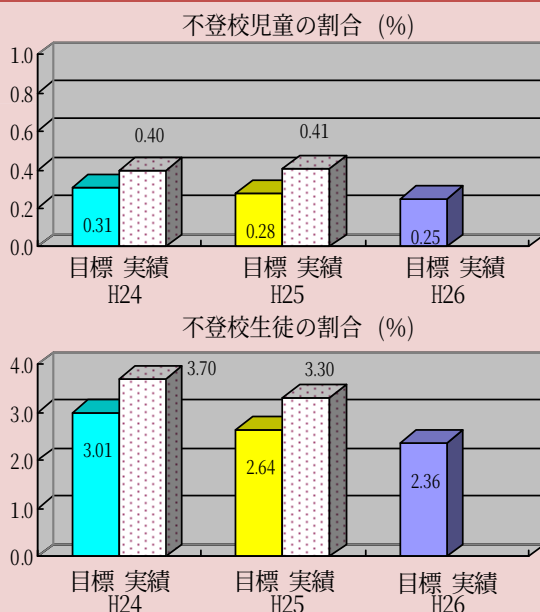
事業概要

不登校を未然に防ぐため、毎月実施する学校計画訪問を通して状況把握を行い、課題解決に向けた様々な対策を学校と連携しながら実施しました。

平成 25 年度実績

学校教育指導員による計画的な学校訪問を実施して学校から情報を収集し、各学校の状況に応じた指導・助言を行いました。(年間 357 回)

成果指標



※不登校児童・生徒の割合は、全児童・生徒総数に占める不登校の児童・生徒数の割合であり、**数値が低いほど不登校が少ない**とされます。

成果と課題・今後の取組等

平成 25 年度から全小・中学校の不登校対策を重点として取り組む体制を組み、不登校の未然防止の重要性や不登校児童・生徒に対する教職員の理解を深めてきました。

今後も、児童・生徒の心の問題に寄り添いながら、不登校の早期発見・早期対応、未然防止に努め、更なる不登校の減少を目指して、学校との連携を密にとりながら事業を進めていきます。

委員からの意見

- ・不登校の早期発見、早期対応、未然防止のために今後も継続して取り組む必要があります。不登校の多い学校には、学校と保護者などと連携して原因を早急に分析し、対応することが望まれます。
- ・このような事業があることによって、教員は不登校に対する危機意識を高めていくことになります。不登校に対する未然防止や早期発見・その対策などは学校全体を始め教員の意識改革や意識の高さによることが大きいと思われます。そのため、学校とつながりのある青少年教育相談センターの存在意義は大きいと考えます。また、この相談機関があることは、教員・保護者・児童・生徒にとって頼りになる大きな役割を果たしていることからして、今後もこの事業の継続を望みます。
- ・学校教育指導員による計画的な学校訪問をいかし、各学校からの情報を収集し、その状況を考慮した指導・助言により、不登校を未然に防ぐ取組が行われています。今後も、児童・生徒の状況把握とともに、学校との連携を深めることにより、不登校を未然に防ぐ取組を継続してほしいと思います。



事業概要

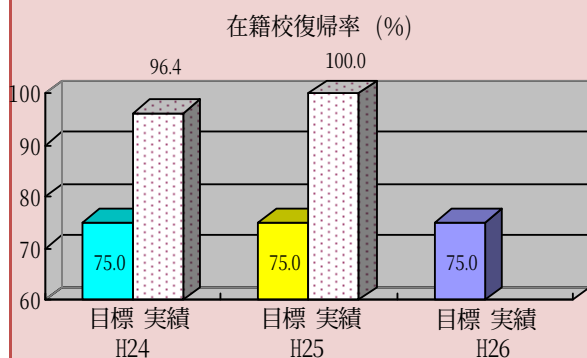
不登校児童・生徒が、小集団での学習や体験活動を通して心の安定を図り、自信を取り戻して学校や社会生活に適応していけるようにするため、個に応じた支援や学習指導を行いました。

平成 25 年度実績

相談指導教室通室生人数 13 人

適応指導ルーム通室生人数 13 人

成果指標



成果と課題・今後の取組等

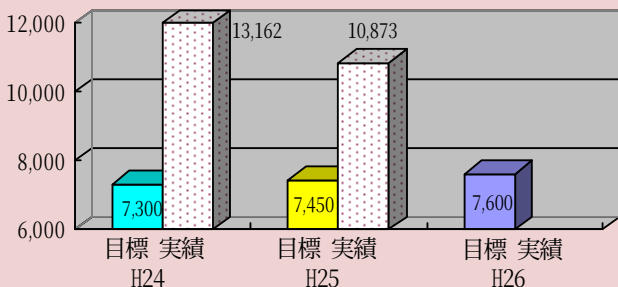
対人関係に様々な課題を抱えている不登校児童・生徒に対して、体験的活動を多く取り入れた行事やきめ細かな学習指導、小集団活動などによる適応指導を推進してきた成果として、部分登校を含め多くの児童・生徒が学校への登校ができるようになりました。

今後も、安心できる居場所としての存在から、更に学校復帰や自立につながるような指導方法の工夫をすることにより、効果的な事業展開を進めていきます。

委員からの意見

- ・ 在籍校復帰率が 100%という、素晴らしい成果を上げており、高く評価できます。継続して取り組んでいただきたいと思います。
- ・ 不登校児童・生徒が学校や社会生活に適応することができるように、適応指導教室において、体験的な活動やきめ細かな学習指導、小集団活動などがされた結果、多くの児童・生徒が学校への登校ができるようになり、十分成果が出ていると思います。今後も、指導方法の工夫・改善に努め、不登校児童・生徒の学校復帰を目指していただきたいと思います。

	平成 25 年度実績 多くの市民の皆様には郷土の歴史や文化などを伝えるため、郷土資料館で収蔵している資料などを活用し、展示や講座を開催しました。
	平成 25 年度実績 多くの市民の皆様には郷土の歴史や文化などを伝えるため、8 回の展示会のほか、郷土資料館で収蔵している資料や知見などを活用し、11 講座を開講、82 回実施しました。

成果指標	成果と課題・今後の取組等												
日常来館者及び行事参加者人数(人)  <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>H24</td><td>7,300</td><td>13,162</td></tr><tr><td>H25</td><td>7,450</td><td>10,873</td></tr><tr><td>H26</td><td>7,600</td><td>7,450</td></tr></tbody></table>	年度	目標	実績	H24	7,300	13,162	H25	7,450	10,873	H26	7,600	7,450	展示8回、11 講座 82 回を開催し、多くの市民の皆様に参加していただきました。毎年継続的に開催している事業の中には、やや参加者数が減少しているものが見られます。新たな切り口など工夫して、市民の皆様に興味を持っていただけるような企画を検討していきます。
年度	目標	実績											
H24	7,300	13,162											
H25	7,450	10,873											
H26	7,600	7,450											

委員からの意見

郷土資料館収蔵資料などを活用して、展示会や講座を開催し、市民に郷土の歴史や文化を伝えることができたと思われます。広く市民に周知する方策を考えると同時に、児童・生徒を巻き込んだ事業を展開するなどして、豊かな心を育む事業になることを期待します。



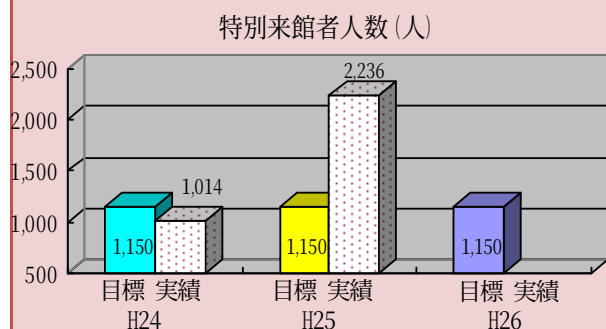
事業概要

多くの市民の皆様に郷土の歴史や文化などを伝えるため、調査や研究などによって得た、歴史・民俗・自然の分野に関する資料を展示しました。

平成 25 年度実績

「あつぎの大野鳥展」(11月～12月)を実施し、厚木市に生息する野鳥について、その種類や生息状況などの概況を紹介するとともに、開館以来、資料館が行ってきた調査の成果により、約 100 の剥製標本、生態写真を展示することで、厚木の野鳥、自然環境の変化について解説しました。

成果指標



成果と課題・今後の取組等

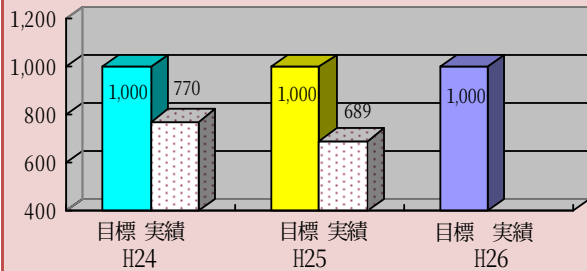
入場者数から展示内容に興味を持つ野鳥ファンの多さを改めて確認できました。

平成 25 年度はバードウォッチングなどの 2 講座を開催しましたが、今後はより多くの市民の皆様が楽しめるように更に多様な数講座の企画を検討します。

委員からの意見

調査・研究などによって得た自然分野の資料を「あつぎの大野鳥展」として展示し、多くの市民に郷土で暮らす野鳥についての状況と自然環境の変化についての理解を図ることができたと考えます。今後も、展示内容に合わせて小・中学校の参観を促し、児童・生徒の郷土愛を育んでいただきたいと思います。

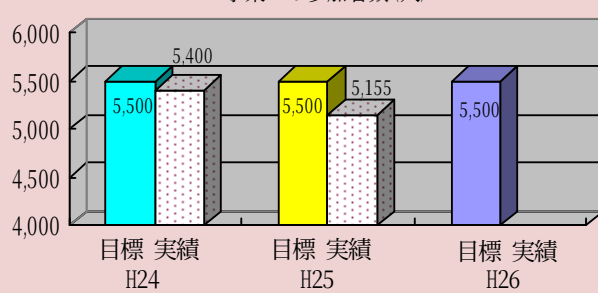
	事業概要
	赤ちゃんの言葉と心を育むため、0歳児を持つ保護者の方に、絵本やブックリストを手渡ししながら、赤ちゃんとの周りの大人がふれあい、言葉と心を通わすことの大切さや楽しさを伝えました。
	平成 25 年度実績
	実施回数 31 回、参加人数 689 人 実施場所 中央図書館・移動子育てサロン・公民館 保健センター

成果指標	成果と課題・今後の取組等												
参加した赤ちゃんの人数(人)  <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>H24</td><td>1,000</td><td>770</td></tr><tr><td>H25</td><td>1,000</td><td>689</td></tr><tr><td>H26</td><td>1,000</td><td>1,000</td></tr></tbody></table>	年度	目標	実績	H24	1,000	770	H25	1,000	689	H26	1,000	1,000	公民館・児童館など地域における実施回数を増やしましたが、半年経過した段階で平成 24 年度比減だったため、11 月から離乳食セミナーとタイアップし、更に回数を増やしたところ増加傾向に転じました。 平成 26 年度についてもタイアップした事業を継続します。
年度	目標	実績											
H24	1,000	770											
H25	1,000	689											
H26	1,000	1,000											

委員からの意見

デジタル社会の中で、活字に触れる機会が少なくなっています。本を読むことで読解力や想像力が養われます。成果がすぐには表れない事業ではありますが、大切な事業と考えます。読書環境の整備など事業の継続と充実が図られることを期待します。

	事業概要
	「読書大好きあつぎっ子」を育成するため、「あつぎ家庭読書の日」(毎月第3水曜日)を中心に、家庭での読み聞かせや親子読書の必要性について、より一層の周知に努めるとともに、読書ボランティアへの支援と連携を進めました。
	平成 25 年度実績 「あつぎ家庭読書の日」(毎月第3水曜日)に、こども未来部と合同で本厚木駅前街頭啓発キャンペーンを実施し、啓発パンフレットを 32,556 枚配布しました。 「読書ボランティア団体実態調査」を実施するとともに、平成 26 年 2 月 18 日に「子ども読書活動ボランティア団体情報交換交流会」を開催し、21 団体 39 人が参加しました。

成果指標	成果と課題・今後の取組等												
事業への参加者数(人)  <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>H24</td><td>5,500</td><td>5,400</td></tr><tr><td>H25</td><td>5,500</td><td>5,155</td></tr><tr><td>H26</td><td>5,500</td><td>5,500</td></tr></tbody></table>	年度	目標	実績	H24	5,500	5,400	H25	5,500	5,155	H26	5,500	5,500	市制 60 周年記念事業として、「(仮称)子ども読書フェスティバル」や「(仮称)あつぎのむかしむかし展示会&おはなし会」を開催する予定です。 子どもの読書活動を考えるワークショップや読み聞かせ講座を開催し、読書ボランティアへの支援と連携を進めます。
年度	目標	実績											
H24	5,500	5,400											
H25	5,500	5,155											
H26	5,500	5,500											

委員からの意見

- ・デジタル社会の中で、活字に触れる機会が少なくなっています。本を読むことで読解力や想像力が養われます。成果がすぐには表れない事業ではありますが、大切な事業と考えます。読書環境の整備など事業の継続と充実が図られることを期待します。
- ・読書は非常に大切であるため、地道に啓発活動を継続していただきたいと思います。
- ・「あつぎ家庭読書の日」を設定し、読み聞かせや親子読書の必要性について周知するとともに、読書ボランティアの支援と連携を深めることで、読書好きの子供たちが育っていると思います。今後も、学校の読書活動との連携・協力を図って、子供たちの豊かな心を育ててほしいと思います。



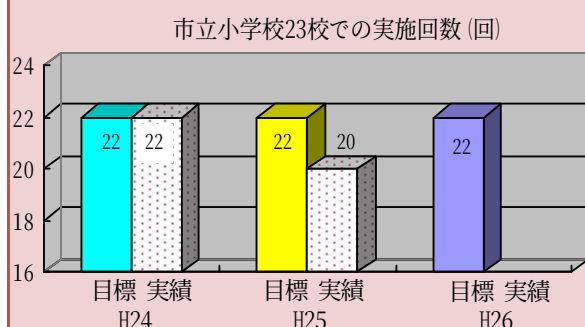
事業概要

児童・生徒の食育に対する関心を高めるため、市立小学校の給食において月1～2回、中学校の給食において2ヶ月に1回程度「パクパクあつぎ産デー」として、地元の農産物を給食に使用しました。

平成25年度実績

小学校給食について、天候不順のため地場農産物の収穫が困難となり、学校により給食の食材として提供できない場合があります。しかし、年間を通して、月1～2回実施できたことから、おおむね達成できました。【年20回/1校】

成果指標



成果と課題・今後の取組等

実績内容から、成果については、おおむね達成できました。

課題として、天候不順などで提供できない場合があるので、今後の取組について、提供できないことを考慮し、地場農産物が提供可能な月は、月2回にこだわらず可能な限り多く取り入れます。

また、生産が少ない地域については、厚木市農業協同組合の協力を得て、学校給食用の地場農産物の作付け計画をしています。

今後も、引き続き小学校給食について、月2回以上実施できるような体制を整えるとともに、中学校給食についても、月1回以上実施できるよう定着させていきます。

委員からの意見

- ・食育はとても大切な教育の一つであり、とても良い事業と評価しますので、今後も継続を望みます。給食を通して、幅広い教育に役立てることが大切であるとともに、更なる生産者の協力が必要ですが、厚木の子供たちを厚木市民みんなで育てようという気運が育つことも必要です。
- ・地元でとれた農産物を給食に使用することで、食べ物への関心を高め、食育を推進することができたと思われます。今後も、学校における食育との連携やJA厚木の食農教育と連携を模索しながら、効果的な食育を進めてほしいと思います。

【基本方針2に対する点検・評価委員からの総括的意見】

食の安心・安全の確保や地域と結んだ食育、医療・福祉と連携した教育相談、収蔵資料をいかす郷土資料館事業、読書ボランティアとつなぐ子ども読書活動などの事業が展開され、効果を上げていると思います。児童・生徒の健全育成のためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を自覚し連携を深める必要があります。また、専門機関の持つ新しい知見を取り入れていく必要があります。さらに、豊かな心と健やかな体を育むためには、人や自然との様々な交流が必要であると考えます。五感を使った体験活動を取り入れるなどして、学校における思いやりや感動する心を育てる施策の充実を望みます。

基本方針3 教職員の資質・能力と組織力の向上を通して、信頼される学校づくりを推進します。

3-①

先生のための研修事業【教育研究所】



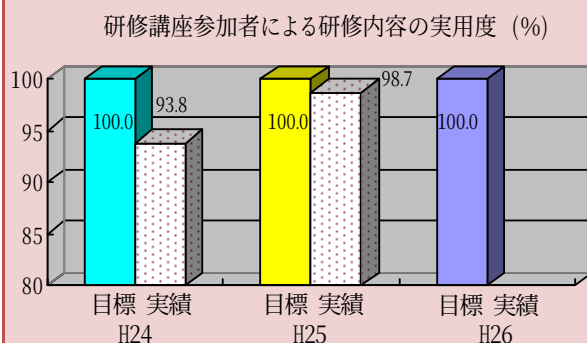
事業概要

教職員の指導力向上を支援するため、教育課題研修や教科指導研修、ICT活用研修などの各講座や、教育研究発表会・教育講演会を開催しました。

平成25年度実績

各種研修講座など開催数 22回
参加教職員数 665人(延べ1391人)

成果指標



成果と課題・今後の取組等

教育研究発表会や各種の希望制研修などにより、教職員の意欲や資質の向上を図りました。経験年数にかかわらず、若手とベテランが学校間を越えた専門的な課題などを共に学ぶ場合は、とても活気があります。

今後も、参加しやすい状況を考慮して事業を推進します。

委員からの意見

・多忙な中で、教員自らがステップアップを心掛けていることに敬意を表します。教員の指導におけるステップアップが、児童・生徒の学びの意欲と学力向上につながるので、継続していただきたいと考えます。

・教育課題・教科指導・ICT活用などの講座や教育研究発表会・教育講演会の開催を通して、教職員の指導意欲を引き出し、資質・能力を向上させることに役立っていると思います。実用度の高い内容になっていますので、今後も、教職員にとって実践的で、魅力のある講座などになるように推進してほしいと思います。



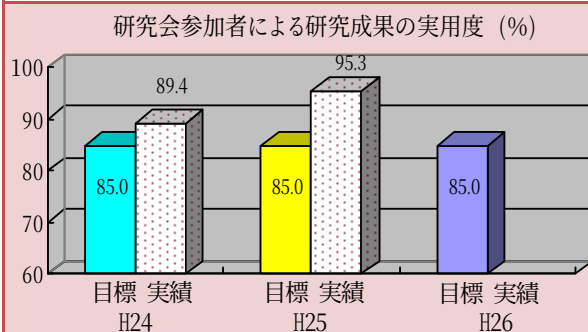
事業概要

教育の新たな動向や今日的な課題に対応するため、教職員や市民の皆様などで構成する研究部会をテーマごとに設け、毎月1回部会を開き、課題解決に向けての調査研究や、教材・資料の作成を行いました。

平成25年度実績

教育調査研究部会 4部会設置・運営
部会開催延べ回数 48回(4部会合計)
研究に携わった教職員・市民 26人

成果指標



成果と課題・今後の取組等

教育の場における様々な課題や新たな教育の動向について、具体的な方策を提起しました。

今後も、今日的課題などについて研究を積み重ね、研究成果を発信し、教職員の質の向上を高めるため、事業を推進します。

委員からの意見

・教職員や市民で研究部会を構成し、課題について協議することを通して、教育の新たな動向や今日的課題に対応した具体的な方策の提起ができ、教職員の資質・能力の向上に役立ったと考えます。今後も、先進性のある内容などを課題として取り上げ、日々の教育実践にいかせる研究になるように推進してほしいと思います。

	事業概要
	家庭・学校・地域社会における教育を支援するため、児童・生徒用の教材や研究紀要などを作成・提供し、教職員の実践をまとめた教育実践記録集の発行や、教育に関する資料の収集・提供も行いました。
	平成 25 年度実績
・ 小学校社会科副読本・地形図 2,200 部発行 ・ 中学校社会科副読本・地形図 2,200 部発行 ・ 小学校放射線教育資料 4,200 部発行 ・ 中学校放射線教育資料 4,200 部発行 ・ 研究紀要 86・87 集 各 1,000 部発行 ・ 教育実践記録 40 集 300 部発行	

成果と課題・今後の取組等

小・中学校社会科副読本の修正増刷を始め、社会情勢などによる教育環境の変化に対応するための最新の教育資料として放射線教育に関する指導資料などの教材を作成・収集・提供しました。

今後も、教職員の質の向上を図るため、様々な教育的ニーズや今日的課題についての研究成果を発信していきます。

委員からの意見

・ 教員の教育活動を支援する教材を多く作成し、放射線資料などの社会情勢を反映させた教材も含まれており、大変有意義な事業を展開していると考えます。是非とも継続してほしい事業です。

・ 社会科の地域学習における副読本や教職員の教育実践集、放射線教育資料の作成・収集・提供を通して、学校の教育活動を確かなものにすることができたと思います。今後も、今日的課題の先進的な対応について、速やかな情報発信を望みます。

【基本方針3に対する点検・評価委員からの総括的意見】

教育研究発表会や各種希望制研修など教員の満足度の高い研修が実施されるとともに、新たな教育課題や教育動向への対応に向けて、教職員などが自ら進める調査研究部会が実施され、教職員の資質や能力の向上に大いに役立ったと思います。それらの場で、経験年数や学校を越えた教員の学び合いがなされている意義は大きいと感じます。今後も、これらの事業を学校・教員ニーズを捉えて実施するとともに、学校全体の「組織力の向上」の視点に立った研究・研修事業などの展開を望みます。

基本方針 4 課題やニーズに対応した教育環境の整備・充実を図ります。

4-①

小学校校舎・体育館改修事業【学校施設課】



事業概要

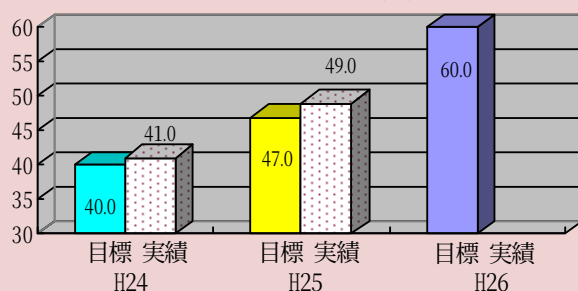
児童が安全で快適な教育環境の中で学校生活を送れるよう、校舎のトイレなどの改修工事を実施しました。

平成 25 年度実績

【校舎・トイレ改修】 森の里小、妻田小
戸田小、飯山小
【外壁・屋上改修】 戸室小
【給水設備】 上萩野小

成果指標

トイレの改修率 (%)



成果と課題・今後の取組等

教育環境の向上及び安全の確保と施設の長寿命化を図ることができました。

今後も、計画的に施設改修工事を実施していきます。

委員からの意見

トイレの改修率が 49% ですが、継続して計画的に実施してほしいと考えます。

**事業概要**

快適な学習環境の整備を図るため、市立中学校の教室へ冷暖房設備を設置しました。

平成 25 年度実績

市立中学校 13 校の普通教室及び音楽室に冷暖房設備を設置しました。

成果と課題・今後の取組等

先行して、中学校における教育環境の向上を図ることができました。

今後は、小学校の教育環境の向上のため、冷暖房設備の設置について計画的に導入を進めます。

委員からの意見

ここ数年の猛暑は想像を超えたものがあり、早急な対応が求められていますが、この事業により、中学校の教室に冷暖房設備が設置され、生徒は快適な教育環境の中で学習ができるようになったと思います。今後、小学校の教室の冷暖房設備をできるだけ速やかに設置することを望みます。

	事業概要
	児童の快適な教育環境の確保を図るため、施設整備を要する校舎などの整備を実施しました。
	平成 25 年度実績 グラウンド移転に伴う測量及び基本設計・実施設計を行いました。

成果と課題・今後の取組等

事業計画に基づき、予定していた事務執行を行うことができました。
 今後も、計画に基づく着実な事務執行に努めます。

**事業概要**

児童が安全で快適な屋外施設環境の中で学校生活を送れるよう、校庭(北小学校)の整備を実施しました。

平成 25 年度実績

北小学校の整備工事を実施しました。

成果と課題・今後の取組等

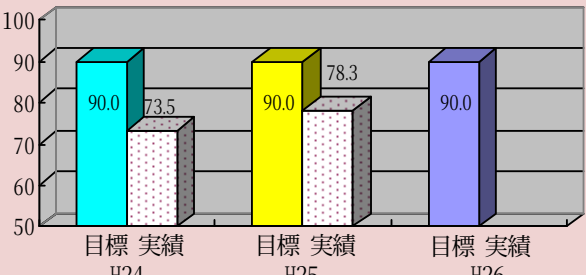
教育環境の向上を図ることができました。

今後も、計画的に改修工事を実施します。

委員からの意見

児童にとって、校庭は学習の場であり、人間関係づくりの場でもあります。設置されている運動器具や遊び器具の中には、老朽化が目立つものもあります。各小学校の現状を踏まえ、安全で快適な校庭となるよう計画的な整備を望みます。

	事業概要
	児童・生徒が安心して登下校できるようにするため、防犯ブザーの配布や学童通学誘導員の配置などを行いました。
	平成 25 年度実績
	・学童通学誘導員の配置 市内通学路 6 か所 ・防犯ブザーの配布 5,400 個 (うち JA あつぎから寄贈 2,500 個) ・児童の防犯ブザー携帯率 78.3% ・通学路注意看板の設置 11 枚

成果指標	成果と課題・今後の取組等												
児童の防犯ブザー携帯率 (%)	学童通学誘導員については市内小学校通学路計 6 か所に配置し、防犯ブザーについてはケータイ SOS ネットでの呼び掛けや、学校を通じた指導などの対策を講じて携帯率を向上させていきます。												
 <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標 (%)</th><th>実績 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H24</td><td>90.0</td><td>73.5</td></tr><tr><td>H25</td><td>90.0</td><td>78.3</td></tr><tr><td>H26</td><td>90.0</td><td>90.0</td></tr></tbody></table>	年度	目標 (%)	実績 (%)	H24	90.0	73.5	H25	90.0	78.3	H26	90.0	90.0	
年度	目標 (%)	実績 (%)											
H24	90.0	73.5											
H25	90.0	78.3											
H26	90.0	90.0											

委員からの意見

- ・児童の防犯ブザー携帯率のみを指標としていますが、最近、女子生徒が不審者の被害にあっている事案を多く目にします。中学生は部活動などで冬場の帰宅時間には既に暗くなっており、生徒数が少なくなっている中、自宅まで一人で帰宅する生徒もいると思います。中学生にも防犯ブザーの携帯を視野に入れて事業を行ってほしいと思います。
- ・全国的にみれば、児童の登下校時の事故が多く発生しており、学童通学誘導員の配置箇所を増やす施策と防犯ブザー携帯率を 100% に近づける施策が必要と考えます。
- ・近年、登下校時における事故や事件が、多く報道されています。防犯ブザーの配布や学童通学路誘導員の配置により、児童・生徒が安心して登校できるようになったと思います。今後も、学校と連携して防犯ブザーの携帯率を上げることや誘導員を増員することで、安全性の確保を望みます。

**事業概要**

経済的な理由により修学旅行に参加することが困難な生徒又はその保護者に、経費の一部を支給しました。

平成 25 年度実績

認定者 160 人

支給額 320 万円

成果と課題・今後の取組等

経済的な理由で修学旅行への参加が難しい生徒やその保護者に対し、修学旅行費の一部を支給することにより、生涯の思い出づくりをサポートし、生徒たちの学校生活の充実につなげることができたと考えます。

今後は、国の高等学校等就学支援金制度が拡充されたことから内容の見直しを検討します。

委員からの意見

保護者にとっても、生徒にとっても大変ありがたい事業だと考えますので、国の制度が拡充されたので見直すと思いますが、厚木に住んでいて良かったと思える見直しを望みます。

4-⑦⑧ **要保護及び準要保護児童就学援助事業(小学校)**
要保護及び準要保護生徒就学援助事業(中学校) 【学校教育課】



事業概要

教育の機会均等を図るため、経済的な理由により就学が困難な児童・生徒の保護者に、学用品費などの経費の一部を支給しました。

平成 25 年度実績

【小学校】支給者数	準要保護者	2,021 人
	要保護者	105 人
	支給額	43,399,756 円
【中学校】支給者数	準要保護者	1,158 人
	要保護者	68 人
	支給額	56,703,814 円

成果と課題・今後の取組等

経済的な理由で就学が困難な児童・生徒の保護者に対して、学用品費などを支給することにより、教育の機会均等を図ることができました。

また、今後も継続的な支援をしていく必要があると考えます。

委員からの意見

経済的な理由で就学が困難な児童・生徒の保護者に対して、経費の一部を支給することを通して、教育の機会均等が保持されていると思います。今後も、引き続き教育の機会均等を念頭に、社会の諸状況を勘案しながら、適切な支援を望みます。

**事業概要**

教育の機会均等を図るため、特別支援学級等に就学する児童の保護者に、学用品費などの経費の一部を支給しました。

平成 25 年度実績

特別支援学級通級者 154 人

ことばの教室通級者 49 人

支給額 5,038,506 円

成果と課題・今後の取組等

保護者の経済的負担を軽減するとともに、教育環境の水準を維持することができたと考えます。

また、今後も継続的な支援をしていく必要があると考えます。

委員からの意見

特別支援学級等に就学する児童の保護者に対して、経費の一部を支給することを通して、教育環境の水準が維持されていると思います。今後も、引き続き教育の機会均等を念頭に、社会の諸状況を勘案しながら、適切な支援を望みます。

**事業概要**

教育の機会均等を図るため、特別支援学級に就学する生徒の保護者に、学用品費などの経費の一部を支給しました。

平成 25 年度実績

特別支援学級通級者 48 人

支給額 2,486,721 円

成果と課題・今後の取組等

保護者の経済的負担を軽減するとともに、教育環境の水準を維持することができたと考えます。

また、今後も継続的な支援をしていく必要があると考えます。

委員からの意見

特別支援学級に就学する生徒の保護者に対して、経費の一部を支給することを通して、教育環境の水準が維持されていると思います。今後も、引き続き教育の機会均等を念頭に、社会の諸状況を勘案しながら、適切な支援を望みます。

	事業概要
	特別な支援を必要とする児童・生徒の適切な就学相談、就学指導を行うため、「厚木市心身障害児就学指導委員会」を運営し、特別支援教育の充実を図りました。
	平成 25 年度実績
	就学相談 年間 4 回 就学指導委員会 年間 5 回

成果と課題・今後の取組等

就学相談及び心身障害児就学指導委員会を開催し、特別な支援を必要とする児童・生徒一人一人の障がいの種類や程度、能力、適性などを的確に判断し、保護者の意見や、教育・医学・心理学などの専門的な見地から意見を踏まえ、きめ細かな就学相談・就学指導を実施しました。

今後も、各学校において特別な支援を必要とする児童・生徒が増加していく中で、個々の状況やニーズに応じて適切な指導を受けられる環境を整備するため、事業を継続していきます。

委員からの意見

適切な就学相談、就学指導を行うために、就学相談並びに就学指導委員会を開催することを通して、障がいの種類や程度、能力、適性などを的確に把握し、保護者や専門的な見地からの意見を取り入れたきめの細かい就学相談・就学指導ができていると思います。今後も、子供の状況を正しく把握し、保護者の理解と協力を引き出すよう留意して、継続していただきたいと思います。

特別支援教育推進事業【学校教育課】



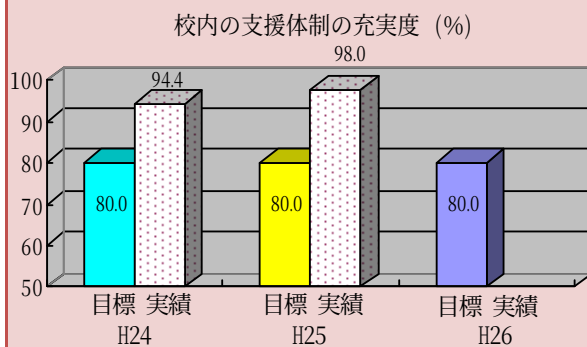
事業実績

特別な支援を必要とする児童・生徒に対して適切な支援・指導などの充実を図るため、総合的な支援体制を整備しました。

平成 25 年度実績

市立小学校巡回相談員派遣回数 34 回
 特別支援教育介助員派遣人数 76 人
 (市立小・中学校 26 校)
 神奈川県立伊勢原養護学校通学送迎人数 17 人

成果指標



成果と課題・今後の取組等

特別支援教育については、児童・生徒一人一人の教育的ニーズに沿った適切な教育環境を整えていくことが課題であることから、専門的な立場の委員による就学相談、就学指導を通して、適切な就学の場や支援の在り方を判断していきます。

特別支援教育推進事業については、介助員の確保や巡回相談員を派遣することによる校内支援体制の充実を図ることが課題です。現在の介助員への継続依頼に加え、市のホームページなどを活用するなどの人材の確保に努めます。

委員からの意見

特別な支援を必要とする児童・生徒に対する指導の充実を図るため、小・中学校へ特別支援教育介助員や巡回相談員を派遣することを通して、校内での共通理解が図られるとともに、支援体制が充実し、適切な支援・指導が行われたと思います。今後も、介助員との情報交換や各学校との協議を通して、支援情報を収集し、より良い指導の在り方を発信していただきたいと思います。



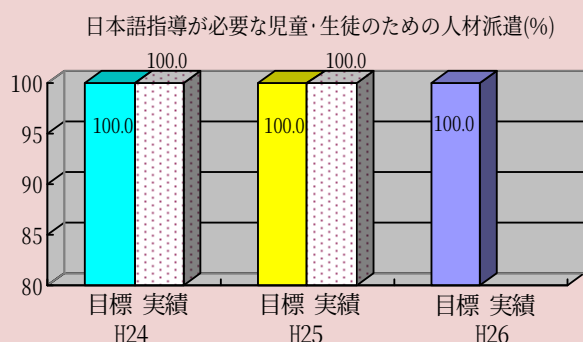
事業実績

日本語の理解が十分でない児童・生徒への指導や支援を行うため、日本語指導協力者などを派遣しました。

平成 25 年度実績

派遣校 市立小学校 11 校、中学校 7 校
派遣人数 17 人

成果指標



成果と課題・今後の取組等

現在、8 言語に対応するために外国籍の児童・生徒に対応できる人材を確保していますが、今後は言語のみならず、対象となる児童・生徒が増加することが予想されるので、人材の確保が難しくなっている状況です。

現在の日本語指導協力者への継続依頼や、紹介による人材の確保を図るとともに、現在の人員でも対応できるようなシフトを学校と相談しながら進めていきます。

委員からの意見

日本語の理解が十分でない児童・生徒にとって、母国語を理解できる日本語指導協力者は、学習面ばかりではなく生活面でも大変頼りになる存在です。関わりを持つことで精神的な安定をもたらす貴重な存在ですので、ふさわしい人材が確保できるよう努めて、より充実した方向で継続していただきたいと思います。



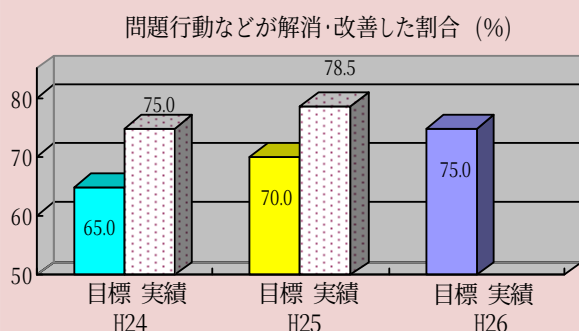
事業概要

児童・生徒の問題行動を解決するため、関係機関などと連携してプロジェクトチームを組織し、一人一人に適した対応を図りました。

平成 25 年度実績

市立小・中学校への定期訪問（学期に 1 回程度）
プロジェクト会議 年 12 回開催

成果指標



成果と課題・今後の取組等

学校だけで解決することが難しい事案は、問題行動を起こす児童・生徒への対応のみならず、家族全体を支える必要があり、小・中学校を越えた連携で継続的に関わる必要があります。

小学校のプロジェクトチームにも強化を図ることで、家庭環境のフォローを早い段階から行うことに努めます。

また、「厚木市いじめ防止基本方針」の策定に当たり、定期的な学校訪問を継続し、いじめの未然防止・早期発見に焦点を当てて指導・助言に取り組みます。

委員からの意見

・学校現場を支える大切な事業だと考えます。教員の負担軽減が図られ、学校現場の要請に速やかに対応できる体制・組織運営を望みます。

・関係機関などと連携して問題行動解決のためのプロジェクトチームを組織して、各学校を定期訪問することなどを通して、児童・生徒の問題行動などが改善されています。今後も、問題行動の根となる学校や家庭の状況を把握し、小・中学校や地域、関係機関との緊密な連携を図りながら、問題行動の解消に向けた取組を推進していただきたいと思います。

【基本方針4に対する点検・評価委員からの総括的意見】

○課題やニーズに対応した教育環境の整備に努め、大きな効果を上げていると思います。特に中学校教室冷暖房設備設置事業は、中学校全校に設置したことで教育委員会のやる気を感じました。今夏、喫緊の課題は、熱中症の予防・対策で、生徒の命にも関わることなので、大事な事業だと言えます。快適な環境で学習できる冷暖房教室の中学校全校への設置は、高く評価できます。

また、高校の修学旅行費支援金も大きな意義があると考えます。高校時代しか友達と共有できない一度きりの修学旅行において、その経費の一部を支給することは、大変に重要な事業だと思います。さらに、トイレの改修、校庭の整備などの良い教育環境は、児童・生徒たちへの最大の贈り物です。今後も教育環境の整備や充実が必要だと判断します。

○学校の施設・設備の整備には、多額の費用を必要としますので、計画的に推進する必要があります。今後とも、継続して計画的に進めていただきたいと思います。

○校舎・体育館・校庭の環境改善や各種の経費支給による教育の機会均等の確保のための事業が、計画的に実施されています。また、保護者や専門的見地からの意見を尊重したきめ細かな就学相談・就学指導、介助員や巡回相談員の派遣による学校支援体制の充実が図られ、一人一人の状況やニーズに合った着実な特別支援教育が推進されています。さらに、日本語指導協力者の派遣による外国籍児童・生徒への支援、誘導員による登下校の安全確保、問題行動解消への取組は、適切な人的配置がされ、成果が出ています。今後も、人材・予算の確保上厳しさがあるとは思いますが、様々な課題やニーズに対して、創意工夫して早急な対応を望みます。また、超高齢化社会を迎え、高齢者の生きがいづくりの視点を教育課題やニーズに対応した取組を検討していただきたいと思います。